

委員会レポート 環境福祉

保険証の

カード

化は？

平成十七年十一月に環境福祉委員会が愛媛県伊予(いよ)市へ視察に行きました。

平成十七年四月一日、伊予市・中山町・双海町の三町が合併し、新生「伊予市」が誕生しました。

伊予市は、愛媛県のほぼ中央に位置し、東西に二一キロメートル、南北に二一キロメートルの広がりを持ち、東南に四国山地、西北に瀬戸内海を臨む美しい自然に恵まれ、面積は一九四・四七平方キロメートルとなっています。

国民健康保険証のカード化については、平成十五年四月より実施しています。

平成十七年度当初の発行枚数は、一般で一万三

千五百六十七枚、退職で二千五百五十枚の合計一万六千百十七枚を発行しています。

既存のプリンターで打ち出せるように紙ベースにしてあります。機器類の費用は特にかからなかったそうです。

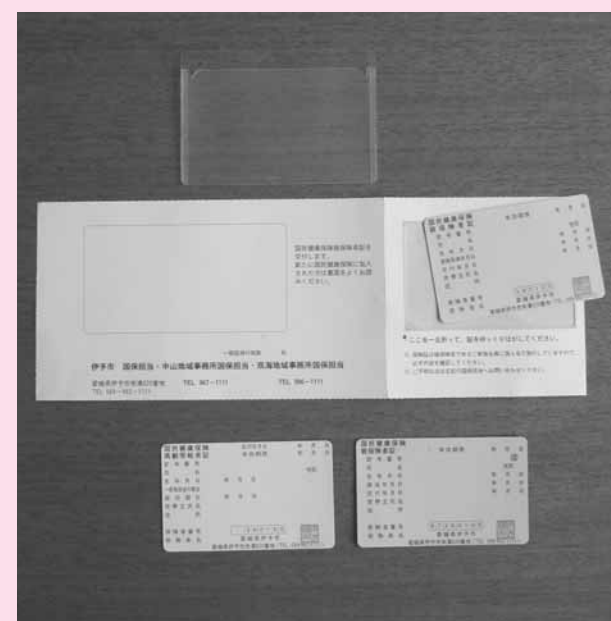
安全性、悪用されないよう、また確実に本人に手渡せるように配達記録郵便にて送付したそうです。

◇メリット

・他のカードと一緒に携行でき、一人一枚で使い勝手がよい。

◇デメリット

・字が小さくなったことで使いにくい面がある。
・紛失が増加する。



伊予市の国民健康保険証(個人カード)

伊予市は、機器等に費用がかからなかったという点でしたが、町独自で電算機を導入しているため、須恵町は機器のプログラム変更等は委託に出さなければなりません。

国民健康保険証がカード化になることについては、非常に便利で使いやすく、誰もがそう願うも



伊予市を訪れた環境福祉委員会

のと思われるが、須恵町における国民健康保険証のカード化については、カードの質や形態、紛失の増加、再発行や短期証等の取り扱い、また費用の問題等さまざまな課題が多いことから、今後も研究を進めながら取り組んでいくべきだと思いました。

十二月議会を終えて



長澤 誠司 議長

平成十七年を漢字二文字で表すと「愛」となり

ました。
毎年十二月に、その年の世相を表す漢字として京都の清水寺で発表されるのですが、紀宮様のご結婚や地震・ハリケーンの被災地に世界中から支援が差し伸べられたこと、あい“という名の女性の活躍など愛でいっぱいとは言えない世の中を愛で染めたいという人々の気持ちの表れではないでしょうか。

十二月議会は三十八議案が提案され、すべての案件を原案のとおり可決致しました。

主なものとしては、行財政改革として今後五年間に職員を二割削減する職員定数の見直しや、組織のスリム化・効率化を

目指し現在の十七課を十二課に統合し再編する条例の改正案、また県内で進む合併による構成市町村の減少に伴う介護保険広域連合をはじめとする各組合の外部規約の変更など、地方自治体の現状を反映した議案が多く、今置かれている地方自治体の厳しい状況を再確認させられた議会でありました。

このような事態に対し議会としても、町が進める行財政改革に全面的に

元気な須恵町

議会としましては、将来を見据えた行政・議会運営に慎重に執行すべき年となりそうです。

「元気な須恵町」であり続けるよう議員一同努力してまいります。

町民皆様の一層のご支援、ご理解をお願い致します。

自立ある福祉と教育のための社会づくり

来年四月で一期の任期が満了を迎えます。

その間町民の方々の暖かいご理解のもとで大過なく町政に邁進できました。

失効を控え、これからのことに對し、心から感謝とお礼を申し上げます。町づくりについて、町村

町政を預かるに当たり合併をテーマに、校区コミュニティ単位で熱い人々と、人と自然とが共生し、自立ある福祉と教育のための社会づくりをしたが、大半の方々の意見は現在の合併新法を視野に入れた新しい枠組みの町づくりや、小学校区を単位としたコミュニティでのスタートということ区の実現に向けて、

行政と町民の皆様とで協働してまいりたいと所信を述べてきました。昨年は、合併特例法の失効を控え、これからのことに對し、心から感謝とお礼を申し上げます。町づくりについて、町村

合併をテーマに、校区コミュニティ単位で熱い人々と、人と自然とが共生し、自立ある福祉と教育のための社会づくりをしたが、大半の方々の意見は現在の合併新法を視野に入れた新しい枠組みの町づくりや、小学校区を単位としたコミュニティでのスタートということ区の実現に向けて、

行政と町民の皆様とで協働してまいりたいと所信を述べてきました。昨年は、合併特例法の失効を控え、これからのことに對し、心から感謝とお礼を申し上げます。町づくりについて、町村

町長報告



中嶋 裕史 町長

この新法は、時限立法で平成二十二年までの五年でありますが、残り四年余りとなりました。幼保一元化を中心とした子育て問題も本年度中に答申をいただき、来年度から実行に入る計画です。

二期目の町政運営に臨む

また、二十一年度までを見通した須恵町の集中行財政改革プランも策定中であり、改革の実現に向けては過去の概念にとらわれない、痛みを伴う覚悟で不撓不屈の精神が必要で

合併問題をはじめ、分権改革の推進や行財政基盤の強化実現に向けて、来期も町民一人一人が誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる魅力ある須恵町の実現を目指して二期目の町政運営に臨む決意です。